



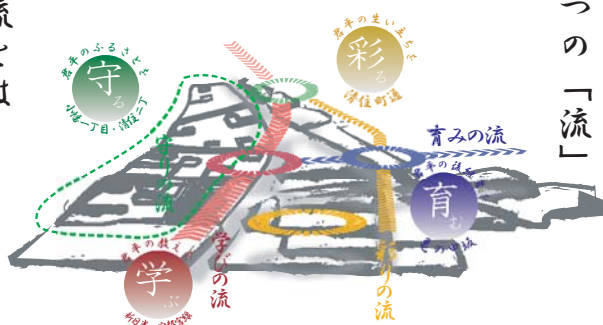
**君平流とは**

（一）清住・小幡地区は、江戸時代後期の儒学者で「前方後円墳」名付け親でもある蒲生君平誕生の地である。旧日光街道沿いには蔵や町屋が残り、歴史の要所であることを感じさせる。

この地域の歴史を後世に継承しながら、地域住民が安全で安心に暮らせるまちづくりを実現するために、「君平流」によるまちづくりを進める。

「君平流」とは、蒲生君平の教えと生い立ちの中から、まちづくりのための教訓を学びとり、まちづくりに活用しようとするものである。

君平流は、「彩りの流」「学びの流」「育みの流」「守りの流」と言う四つの「流」から成る。



## 歴史資源をめぐる課題



清住町通りは、蔵などの歴史的建物が残存しているものの、駐車場への転換が増加し、消失が著しい。しかし都心環状線が開通すると、交通量が減少することから、駐車場経営も頭打ちになると予想される。歴史的建物の保全と活用、そして駐車場の新たな活用方策が清住町通りの大きな課題である。

清住町通りから少し離れた小幡郵便局の裏には、蒲生君平誕生の碑がある。君平の生家は灯油商だったことにちなんで清住町通りに「彩りの流」を形成する。

蒲生君平誕生の地を源として、清住通りに江戸時代後期の光を灯す。また君平が過ごした江戸時代後期の街並みを再現するべく、よしずや暖簾で歴史的街並みを再現する。

## 子育て支援



少子化が進む中で、子供は地域ぐるみで育てる必要がある。しかし、小幡・清住地区には、子育てのための施設が乏しい。幼稚園や保育園や学童保育がないうえ、児童を遊ばせるための公園も無い。地域の将来を担う子供を育てるためにも子育て施設を整備する必要がある。

道路幅員の拡張が行われる県庁前通り「亀の甲坂」南側には、君平が幼少期に学問を学んだ延命院がある。道路拡張に併せて亀の甲坂付近に「育みの流」を形成し、地域の将来を担う子供や若者のための教育施設を集積させる。

## 高齢者の生きがいづくり



地域の高齢化が進み、高齢者の健康促進とともに、地域内での生きがいづくりや仲間づくりの機会が求められている。

高齢者の学習意欲や活動意欲を受け止めるべき場を地域内に整備し、外出の機会を増大させる。

君平は46歳の生涯を終えるまで、学問に深け、『山陵志』や『不恤緯(ふじゅつゐ)』など多くの書を著した。

生涯を学問に捧げた君平の生い立ちと、教えを地域に反映させ継承してゆくために、新たに整備される新日光・宇都宮線沿道を「学びの流」として整備し、高齢者のための生涯学習施設を集積させる。

## 災害への備えをめぐる課題



小幡・清住地区の最も大きな課題は、災害対策である。この地区は、戦災を免れたことから、建物の更新が進まず、築年数が80年以上の住宅も多く残っている。特に小幡一丁目と清住二丁目には、老朽化した建築や未接道住宅が多く、公園も少ない。火災や震災時には甚大な被害が予想される。

君平は、国防論を唱え、海外の脅威から国民を守るための方策を考案した。1807年に君平が著した国防論「不恤緯(ふじゅつゐ)」の中で、武士に頼らず、民兵を用いて国防に当たることが望ましいと説いている。

小幡・清住地区の安全・安心もまた、地域住民自らの手によって守られるために「守りの流」を形成する。地域の未接道住宅を解消するとともに、住宅地内にオープンスペースを設け、延焼防止と一時非難場所の確保を行う。さらに地域住民のコミュニティ形成や、防災訓練を活発に実施し、災害に強く自立した地域づくりを目指す。